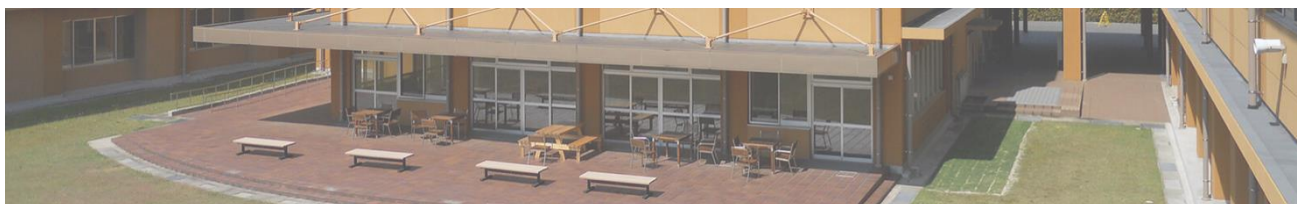


定時制・単位制・散在地域  
新規受け入れ校  
ブラジル出身生徒  
多文化共生に向けた教職員対象研修  
外部機関との連携による運営協議会

# しんじ 島根県立 宍道高等学校

2021年度から本格的に外国人生徒等の受入れを始めた高校です。日本語、学習、生活、就職・進学などの包括的な支援をするため、外部機関と連携しながら取り組みを進めています。



学校名	島根県立宍道高等学校	所在地	島根県松江市
課程・制度・学科	定時制・単位制・3部制・普通科		
特別入学枠	なし	措置	ルビ振り。申請があれば国語・社会の試験を免除し、作文試験を実施。
全校生徒数（人）	230	外国籍生徒数（人）	5
特別枠入学者数（人）	—	日本語指導が必要な生徒数（人）	5

生徒の生活スタイルに合わせて学べる定時制課程、3部制の学校です。1年の準備期間を経て、2021年度（令和3年度）より本格的に体制を整えて受け入れを開始しました。

## 生徒の実態・とりまく状況

外国人生徒等は、主に地元にあるブラジル人を雇用している企業で働く保護者とともに来日したブラジルにルーツをもつ生徒です。地元の積極的にブラジル人を雇用する企業には、18歳になれば、中卒・高卒に関係なく採用するところがあります。高校卒業の資格を必要と考えない生徒は、卒業へのモチベーションが上がりません。

生徒の中には、親の都合で日本とブラジルを行き来した経験をもつ生徒、小学校・中学校時代に不登校傾向にあった生徒もいます。こうした生徒は、日本語でもポルトガル語でも教科の概念や学習のための言語の力が発達していない場合が多く、教科学習に困難があります。

保護者は長時間の工場勤務をしており、家事のほとんどを生徒が担っています。このような家庭の状況に、生徒は「いつまで日本にいられるのかわからない状態なので、進路を考えろといわれても無理。」という本音があるようです。一方で、「日本の高校を卒業して自分の進路選択の幅を広げたい」という思いで入学してくる生徒もあり、進路に対する意識が非常に高いです。

## 受け入れ体制

日本語指導担当者（加配教員）、非常勤講師、日本語支援員（2名）で対応しています。  
生徒の実態を把握するために、出雲市内の中学校の関係者と情報交換等を行っています。  
外国人受入れのための運営協議会を設置し、外部の団体よりサポートを得ています。

⇒ 詳しくは「特徴ある取り組み」で紹介

週に3日、ポルトガル語のできる日本語支援員（日本人）が来校し、母語で生徒の悩みを聞く等対応してもらっています。

## 学習指導・支援の工夫と特徴

### 日本語指導

学校設定科目として、「日本語理解（Ⅰ・Ⅱ）」を設置しています。

令和3年度は、「日本語理解Ⅰ」（4単位）だけを開講しました。1コマ45分で2コマ連続の90分授業が週2日（月曜日と木曜日）行われています。

学校設定科目名	対象者	授業内容	担当者
日本語理解Ⅰ①	2年次生 1名	（月）家庭科の教員と一緒に日本の料理や文化に関する授業。	日本語担当者（国語科）、 非常勤講師、 家庭科教員
		（木）他教科の理解につながる日本語の授業（やさしい日本語 NEWS、語彙学習、トピック作文、トピックトークなど）。	
日本語理解Ⅰ②	1年次生 4名	（月）（木）他教科の理解につながる日本語の授業（日本語理解Ⅰ①と同じ）。	日本語担当者（国語科）、 非常勤講師、 日本語支援員

### 教科学習支援

1年次生の授業に日本語支援員が一緒に入り、母語・やさしい日本語でサポートを行っています。

## キャリア支援

「総合的な探究の時間」に CCP（キャリア・カウンセリング・プログラム）を実施しています。日本人生徒のために作られているプログラムなので、外国につながる生徒に合わない内容の場合は、適宜アレンジを加えたり、別メニューを準備したりしながら対応しています。「進路指導等は自分に関係ないので総合的な探究の時間は欠席する」と話す生徒が多いのが課題です。

また、多様な職業に就いている人の話を聞き、視野を広げることを目的として「キャリアガイダンス」

を実施しています。今年度は、日本で活躍するブラジル人の体験談を聞くことができ、生徒にとって自身自身の進路を見つめ直す良い機会になりました。今年度から受入れ体制事業をスタートしたので、具体的な進学指導・就職支援はこれからです。

## 特色ある取り組み「多文化共生」

- 教職員向けの研修を実施しました。異文化体験ゲーム「バーンガ」や外国人生徒等の体験談、ポルトガル語の授業体験等を通して、外国人生徒等を理解する姿勢を学びました。
- 来年度以降は、生徒を対象とした異文化体験講座を実施予定です。
- ポルトガル語に関心を持つ日本人生徒が多くいます。そこで、放課後の時間等を使って、外国人生徒等からポルトガル語を学ぶ場を設けられないか検討しています。
- 学園祭等で、保護者や日本人生徒を巻き込んで、ブラジル紹介やブラジル料理店を実施できないか検討中です。

## 学外との連携

外国人生徒受入れのための運営協議会を組織し、次の機関よりサポートを得ています。

しまね国際センター：研修会等への講師派遣や日本語指導の助言。通訳の派遣。3者同時通話システムの提供。

NPO 法人エスペランサ：ブラジル人材の紹介。生活サポート。

島根大学：研修会での講義。日本語指導への助言。

島根県環境生活部文化国際課：国際交流員の派遣。校内文書の翻訳。

出雲市教育委員会：受入れ生徒の情報提供。中学校との連携サポート。

島根県教育委員会：外国人生徒等受入れへの指導・助言。

## 今後の取り組み

- 外国人生徒等に対する各教科の授業内容を、どこまで特別な内容にするのか、また、してもいいのかは難しい問題です。この問題は、授業内容の評価（評定）にも関わります。同じ科目を選択している日本人生徒と別に評価をすることが良いのかどうかも考える必要があります。
- 学校設定科目「日本語理解」のカリキュラムを改めてデザインしていきたいと考えています。

ヒアリング実施日：2021年9月3日